

# 鯉のぼり

江戸末期から明治初頭にかけて、堺に伝統的な鯉のぼりの技術が誕生しました。  
現在にも受け継がれる鯉のぼり作りの歴史を辿ってみましょう。

## 明治前期

明治初期、玩具問屋「高儀(たかぎ)」初代高田義三郎(たかだぎさぶろう)が、和風(かつまだこ)の職人に和紙の鯉のぼりを作らせたのが、堺の鯉のぼりの始まりです。

## 明治中～後期

英国から幅広い綿布を輸入し、晒の技術なども取り入れて綿布の鯉のぼり制作を開始。  
和紙に比べると耐久性が格段に向上しました。また、明治後期には、真鯉の背に金太郎  
がまたがっているというお馴染みの図柄が考案され、人気が広がりました。



現在にも伝わる伝統的な図案  
は、この時代に堺で生まれました  
:写真提供/(公財)堺市産業振  
興センター

## 昭和初期

昭和初期ごろまで、関西一円に加え、ハワイにも輸出するなど、隆盛を誇るようになりました。

## 昭和中期

ナイロン製スクリーン印刷の安価な鯉のぼりが流通し、堺の手描き鯉のぼりは激減しました。

## 昭和後期

昭和61年、大阪府で唯一手描きの伝統を受け継ぐ「高儀の鯉幟」  
は、「堺五月鯉幟」として、大阪府知事指定伝統工芸品の指定を  
受けました。



大胆な構図と鮮やかな色彩は、手描きならではの美しさを誇ってい  
ます:写真提供/(公財)堺市産業振興センター

## 現在

現在、全国でも4～5軒しか現存しないといわれる手描き鯉のぼりの技術を「高儀」6代目の高田武史さんが継承しています。



例年5月を迎えるころには、子どもたちの成長を祈る鯉のぼりが堺の空を泳ぎます。写真提供/（公財）堺市産業振興センター